

【平成30年度クマ剥ぎ被害箇所でのヒノキアスナロの樹下植栽試験取組結果】

- | | | |
|---|-------------------------------------|------|
| 1 | ヒノキアスナロの植栽(秋植え)..... | P1 |
| 2 | 伐採後の全天空写真による空隙率の解析、伐採前の空隙率との対比..... | P2～4 |
| 3 | 試験プロット内の植栽木の苗高・根元径の計測・とりまとめ..... | P5 |
| 4 | スギ立木に実施した被害防止対策の有効性調査..... | P6 |

(下越森林管理署)

1 ヒノキアスナロの植栽(秋植え)

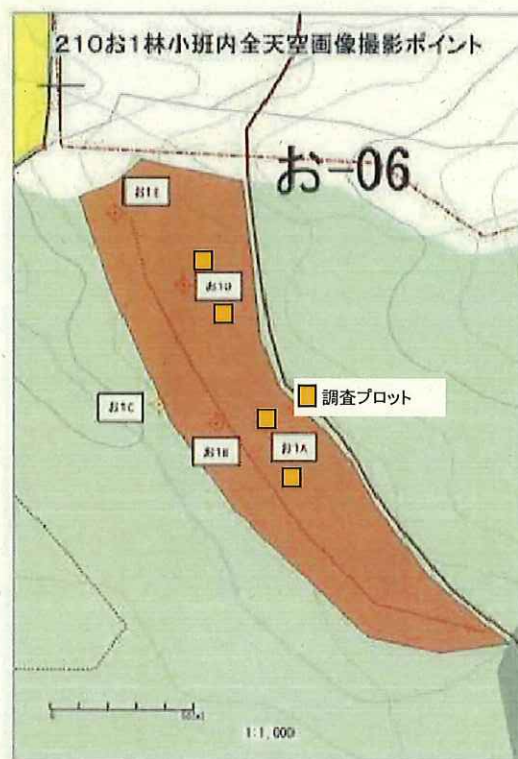
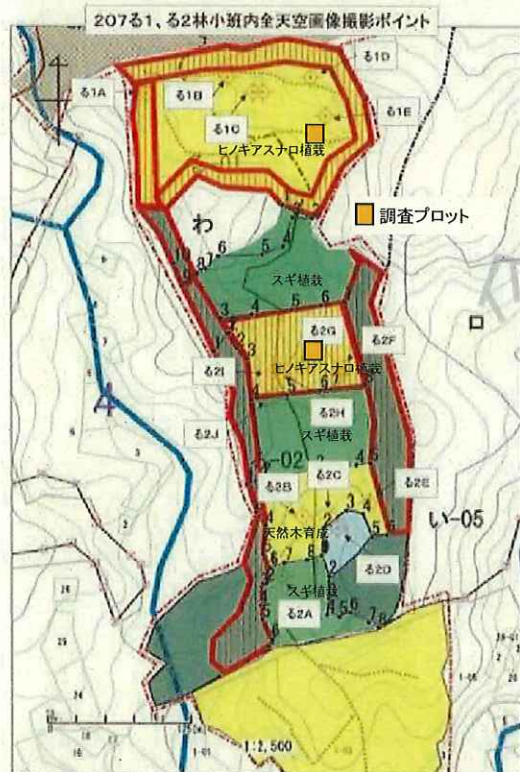
(1) 植栽

- 時期: 平成30年11月
- 植栽本数: 5,660本(3,000本/ha)



2 伐採後の全天空写真による空隙率(樹冠疎密度)の解析、伐採前の空隙率との対比

林小班	207る1	207る2	210お1
撮影箇所数	5箇所	10箇所	5箇所
撮影日(伐採前)	H28.10.13		H28.10.15
撮影日(伐採後)	H30.10.15		



伐採前 (207る2)

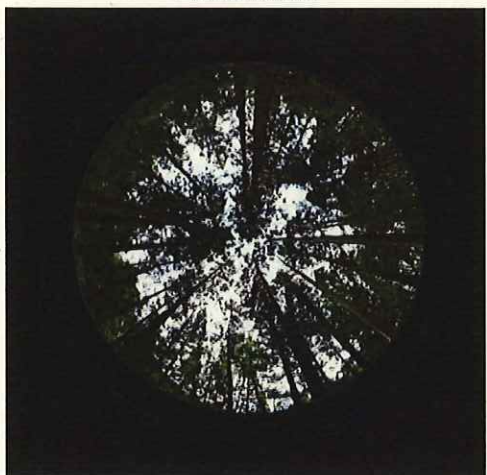
伐採後 (207る2)

2 伐採後の全天空写真による空隙率(樹冠疎密度)の解析、伐採前の空隙率との対比

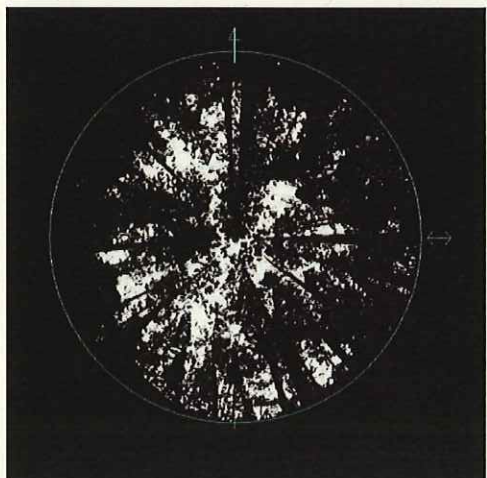
(2) 画像解析

撮影画像(207る 2D地点)

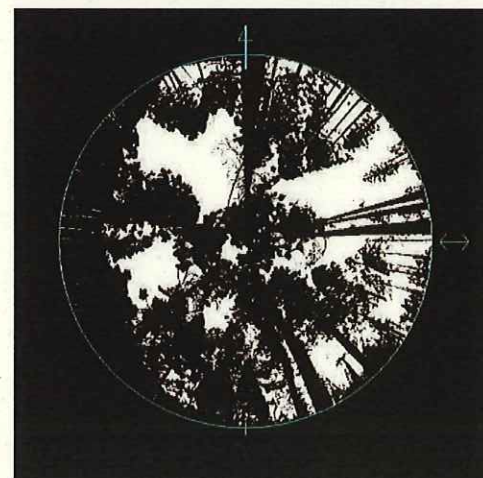
(伐採前)



(伐採後)

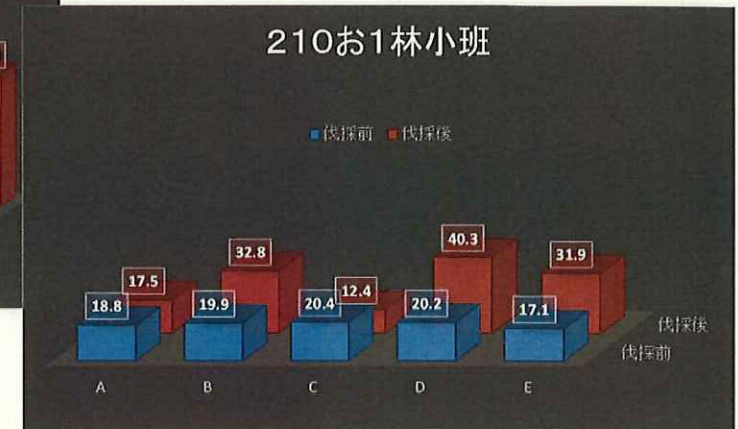


解析用ソフトウェアで
二値化処理した画像



2 伐採後の全天空写真による空隙率(樹冠疎密度)の解析、伐採前の空隙率との対比

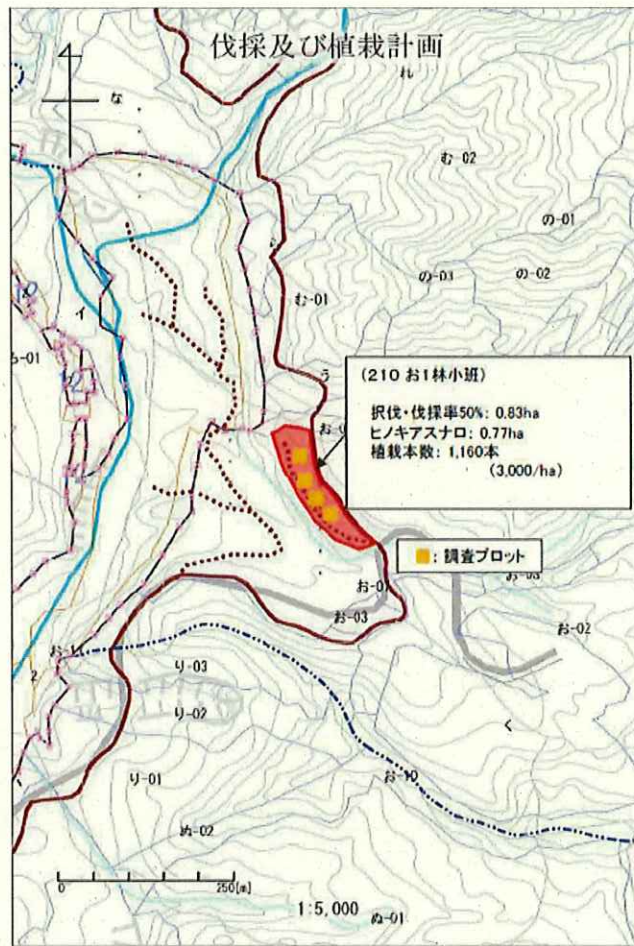
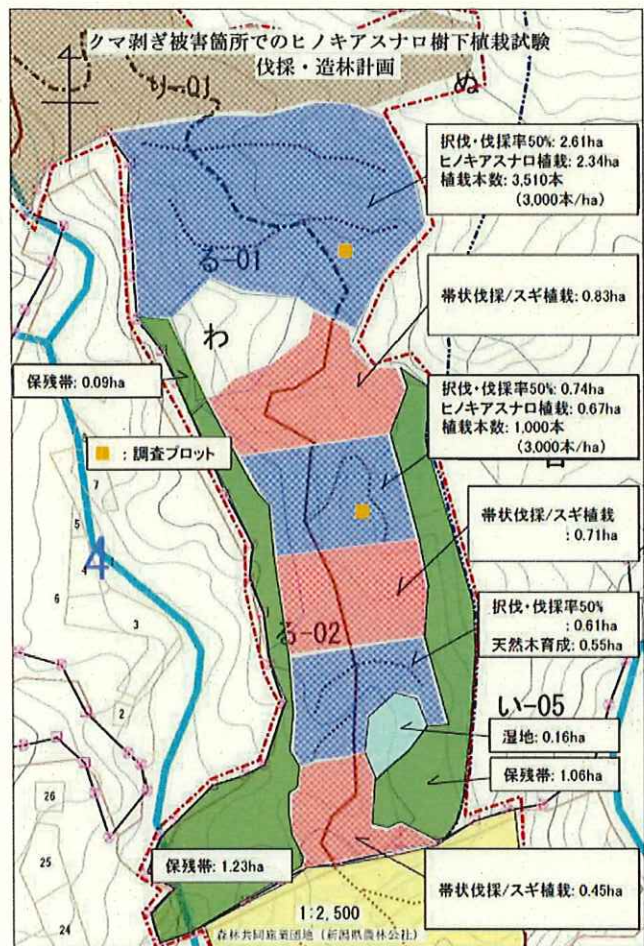
(3) 結果



(4) 考察

- ・空隙率は伐採前の約20%から伐採後最大約50%程度に上昇。
- ・調査地点・撮影・解析それぞれについて誤差が生じている可能性あり(作業に伴う攪乱、日照条件、人為的誤差等)。

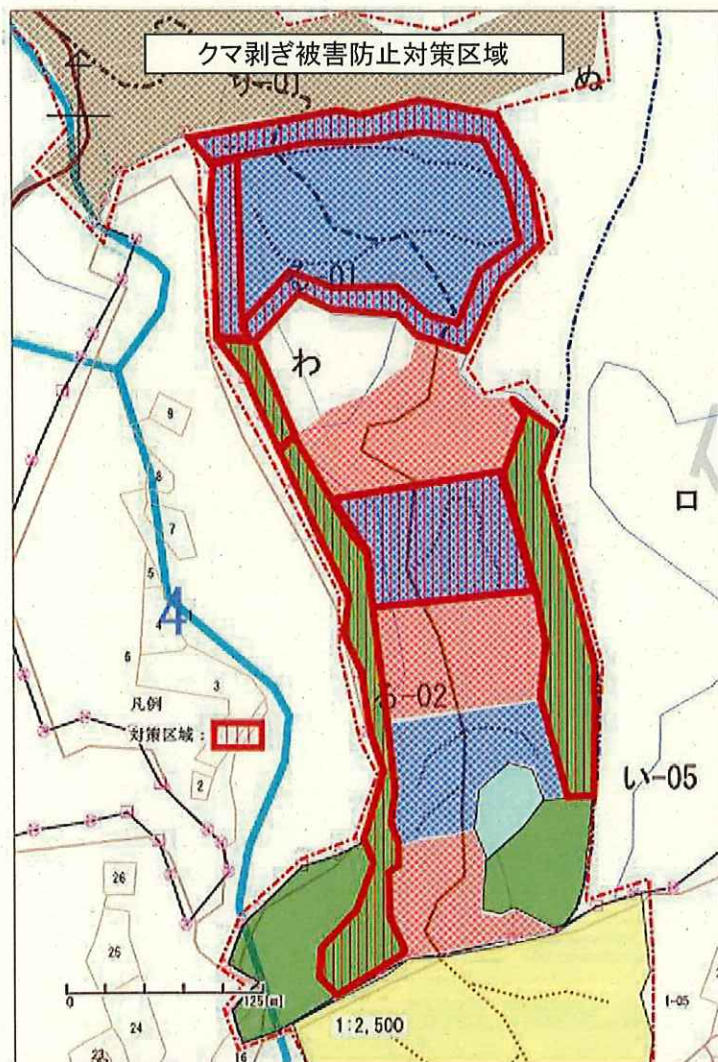
3 試験プロット内の植栽木の苗高・根元径の計測・とりまとめ



・調査時期: 平成30年12月

・調査プロット数: 6プロット

4 スギ立木に実施した被害防止対策の有効性調査



(1) 被害防止対策の実施

- ・年度：平成28年度
- ・方法：成長物バンド巻付
- ・本数：スギ立木1,130本
- ・箇所：左図斜線部

成長物バンドによる対策



(2) 被害防止対策の有効性調査の実施

- ・時期：平成30年9月～10月
- ・方法：全木(対策を実施した立木)

(3) 結果

- ・被害率：0.5%

対策実施立木	被害立木	被害率
1,130本	6本	0.5%

(参考) 被害対策を実施していない立木の被害

対策未実施立木	被害立木	被害率
1,905本	391本	20.5%